

中国空軍ニュース：第5番目のJ-11B/BS戦闘機連隊が成立

漢和防務評論 201312024（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

漢和防務評論ネット版（20131224）にSU-27の中国版J-11B/BS戦闘機の第5番目の飛行連隊が江蘇省連雲港市に新設されたとの記事を紹介します。

この情報は、平可夫氏が中国航空工業界の消息筋から直接入手したもので、場所はロシアということです。中国の技術者がロシアに滞在している間に入手したのでしょうか。入手時期を特定すると情報源が特定されてしまうので時期は明示されていません。

連雲港市は東シナ海と黄海に面し、戦略的に重要な位置にあります。飛行場は市の中心部から約25KM西にあり、軍民共用のようです。情報源によると、この部隊のJ-11B/BSは国産のWS-10Aエンジンを搭載していますが、故障が多く、空軍の評価はよくないようです。

ロシア製のSU-27は、ロシア製AL-31エンジンを搭載していますが、同エンジンは中国に無制限に輸出できるわけではないので、中国空軍戦闘機は今後エンジンが原因で次第に戦力が低下する恐れもあります。

SU-35についても、中国はロシアとタフな交渉をしているようです。

KDR モスクワ平可夫特電：

中国航空工業界の消息筋は、モスクワにおいて**KDR**に対し若干の重要情報を伝えた。第一は、**J-11B/BS**戦闘機の生産に関することである。消息筋によると、第5番目の**J-11B/BS**戦闘機連隊が連雲港に成立した。消息筋は工業界の人物であるため同連隊の部隊番号までは知らなかった。“最近成立した空軍部隊らしい”と、消息筋は述べた。

KDRは**J-11B/BS**戦闘機の生産状況調査を終えたばかりである。中国空軍は、現在までに、5個連隊建設を終えており、それぞれ人民解放軍空軍航空兵第1、第37、第30師団、海軍航空兵第9師団が「鞍山」「ウルムチ」「大連」「海南島加菜」に駐屯している。

また消息筋は、“これらの**J-11B/BS**は、国産の**WS-10A**エンジンを装備している。空軍司令部は、訓練大綱に基づいた高度な訓練を要求しており、頻繁に飛行訓練が行われている。空軍は、故障率が高いためこの機体に満足していないが、仕方なく受け入れている”と述べた。この情報は、外部世界が初めて知っ

た連雲港に設立された新たな J-11B/BS 部隊の状況である。この部隊は、明らかに日本及び朝鮮半島を対象としている。

これについて KDR が衛星情報を分析したところ、確かに連雲港民用飛行場に 24 個の長屋式格納庫が建設されている。これは J-11B/BS 戦闘機部隊の典型的な建築物であり、J-11 シリーズの戦闘機 1 機を確認した。これは 8 月 30 日に更新されたばかりの衛星写真である。土盛り型の航空機掩体は今後強化型格納庫に建て替えられるようであり、工事が進行中のようだ。J-11B/BS の各連隊が 24 機ずつ保有しているとすると、現在までに瀋陽航空機会社は、合計 120 機の J-11B/BS を生産したことになる。

このほか、J-16 型多用途戦闘機の生産状況について、消息筋は、現在 4 機の原型機が生産され、試験飛行が行われている。空軍及び海軍は試験飛行を急ぐよう求めている。J-16 は、SU-30MK-2 の中国版で、主として空対地、空対艦攻撃能力が強化されている。

艦載早期警戒機の開発の是非について、消息筋は、“西安に出現した Y-7 型早期警戒機は、ここ数年、全く飛行していない”と述べた。したがって KDR は、艦載 Y-7 はある種技術のモデルに過ぎないのではないかと判断している。海軍は、この種の艦載早期警戒機の試験飛行の実施を急いではないようだ。

また消息筋は、SU-35 導入に関する対露交渉の状況について次のように述べた。“現在中国空軍は、SU-35 を導入するかどうか最終決定はしていない。一切は、価格、飛行性能等交渉の結果による”と。これは最終決定が未だ為されず、“交渉が進行中である”ことを意味する。

以上